

施設の今後のあり方

**存続
(利活用)**

障がい者が安心して自立した生活を送れるよう、身体障がい者等の機能回復訓練など健康づくりや生きがいくりに取り組むとともに、様々な相談に応じる。

目指すべき
施設像

- ①機能回復訓練などによる障がい者の健康増進や、様々な相談に応じることができる施設
- ②障がい者のスポーツや趣味・文化活動等の機会を創出する施設

目指すべき
利用者像

- ①機能回復や生活相談を必要とする障がい者やその家族
- ②スポーツや文化教室・各種大会に参加する障がい者や障がい者関係団体等

定量的目標
達成指標

- ①施設利用者数の増 (R1～R3平均：18,759人／年)
27,000人／年 (参考R1実績：23,967人／年)
※1,000人／年ずつ増加
- ②eスポーツの体験会・イベント開催回数の増
10回／年 (参考R3実績：4回／年)

定性的目標
達成指標

- ①利用者拡大のため、障がい者のニーズを捉えた講座開設などにより、施設の魅力向上に努める。
- ②利用者満足度向上のため、利用者の意見を踏まえた施設の機能充実やサービス向上に取り組む。

主な課題と解決策

【課題】

- ①子どもから高齢者まで、幅広い世代の利用者を確保するため、イベント等の充実と広報の強化が求められている。
- ②建設から38年が経過しており、施設の老朽化が進んでいる。また、健康づくりや生きがいくりの大会・イベント開催時に、参加者の駐車場スペースが不足する。

【解決策】

- ①・障がい者（児）と関わる相談支援事業所や職能団体を通じて、教室・イベントを周知する。
・若年層の利用者確保を目指し、eスポーツ体験会・イベントを開催するとともに、放課後等デイサービス事業所による利用を促進する。
・特別支援学校の先生と生徒等を対象に、スポーツ・文化教室の体験会を開催する。
・高齢障がい者のリハビリや仲間づくりを兼ねた運動・文化教室を開催する。
・障がい者団体へのインターネット予約システム稼働・使用料キャッシュレス化に合わせて、利用登録を促進する。
- ②・計画的な改修によって施設の長寿命化を図り、駐車場については当面、聴覚障害者センターとの駐車場利用調整や臨時駐車場を確保する。一方で中長期的には、本施設が津波浸水区域に立地していることから、移転を含めた抜本的な改善策を検討する。